

うちの学校 紹介しまあ!

その9 北淡小学校



北淡小学校は、創立8年目を迎えました。

浅野・生田・仁井・野島・富島・室津の各地域から全校生の半分以上が、スクールバスで通学をしています。来年度は、育波小学校との統合を控えています。

統合の度に児童数が増えている北淡小学校を支えているのが、「北淡小学校みんなの約束」です。

- 安全な生活のために
- 心の通い合う生活のために
- 学習に集中するために
- 秩序の整った生活のために
- 気持ちの良い環境づくりのために

と、大きな項目があり、さらに細かく約束事を決めています。その中の一つ「くつのかかとをそろえ、下駄箱を美



(気持ちよく整頓された靴箱)

しくしよう」は、北淡小学校が自慢できる「みんなの約束」の一つです。

入学間もない一年生も上級生を見習い、靴のかかどをきつちりと揃えます。上級生は自分で気を付けて揃えています。友だちの分までそろえる子もいます。お互いのことを思いやったり、全体のことを考えたりする態度が育っています。

さらに「花壇や学級園の植物を大切にしよう」では、夏野菜や花を育てるために、子どもたちが協力して水やり等の世話をしています。調理実習で食することで自然の恵みを味わい、協力することの大切さを学びます。

6月25日(日)は、授業参

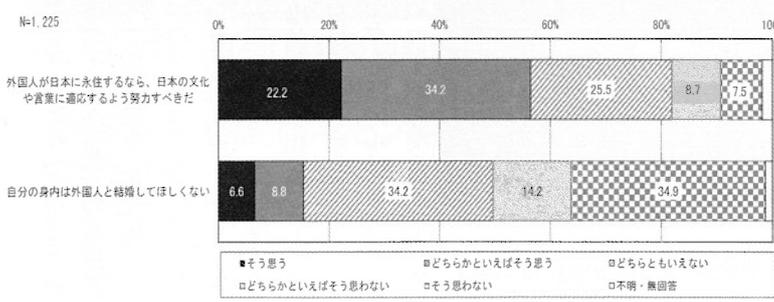


(学級園の植物を育てる児童)

観・親子ふれあいドッジボールが行われる予定でしたが、前日夜から降り出した雨によりドッジボールは中止となり、授業参観だけになりました。子どもたちは残念がりましたが、お天気には逆らえませんが、授業参観は、日曜日ということもあり、平日の授業参観よりも多くの保護者の方が来校してくださいました。

一年生は入学して二度目の授業参観ということもあり、四月の授業参観よりも落ち着いて学習に取り組むことができ、子どもたちの成長を感じることができるといわれています。

(図表 18) 「外国人についての質問項目」



淡路市の「人権意識調査」から

シリーズ⑤

テーマ

外国人

がいこくじん

法務省の調べによると、日本における在留外国人(登録外国人)数は2016年末現在、約240万人で20年前と比べて1.7倍となつてい

淡路市においても増加傾向にあり、4月1日現在、257人の外国人が住んでいます。フィリピン、韓国、中国などの国籍を持つ方が多く、淡路市人口の約0.6%に当たります。

淡路市人権意識調査で、「外国人が日本に永住するならば、日本の文化や言葉に適應するよう努力すべきだ」という質問に対して、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という回答を合わせると56.4%となり半数以上の市民が「郷に入れば郷に従え」の感覚を持っていることがうかがえます。また、外国人との結婚についても15.4%の人が肯定的です。

昔は、日本で生活する場合は、日本語の習得、日本社会や文化の理解と受け入れなどが重視されていましたが、最近では、様々な文化、習慣、歴史を持つ人たちが、お互いの存在を尊重し、すべての人の人権を大切にすることで社会の創造を目指す「多文化共生」の考え方が生まれています。

淡路市人権は、たくさんの国の人たちが私たちの街に暮らしていることを念頭におきながら、多文化共生社会の実現を目指します。